



すべては御船町の未来

町民みなさまの

笑顔のために



ふじきまさゆき

藤木正幸



Masayuki Fujiki

プロフィール

ふじきまさゆき

藤木正幸

「藤木正幸って、どんな人なの？」

生まれも育ちも御船町



昭和40年10月8日生まれ	昭和53年
御船5丁目育ち	御船町立御船小学校卒
有限会社 藤木屋(冠婚葬祭業)	昭和56年
専務取締役	御船町立御船中学校卒
御船町前観光協会会長	昭和59年
御船高等学校同窓会副会長	県立御船高校卒
妻と1男5女の8人家族	昭和63年
	第一経済大学(旧:日本経済大学)
	経済学部経営学科卒

小学校から大学まで野球一筋 こんな一面もあります
チームワークと目標の大切さを学びました

スポーツといえば「野球」。小学校から大学まで野球に没頭しました。野球に対する情熱はまだ冷めておらず、50歳を目の前にした今も、チームに所属してプレーしています(実力は年齢相応ですが…)。

そこまで野球に熱中できるのは、野球を通して自分自身やチームの成長が感じられる喜びだけでなく、チームワークの重要性や目標を持つことの大切さなど、社会でも役立つことをたくさん学べるからです。私が掲げる「共働」というまちづくりの基本姿勢も、野球から得たことが多いです。



藤木正幸 後援会事務所

〒861-3207 熊本県上益城郡御船町御船954-5

☎096-282-6500

E-mail fujiki6500@gmail.com 後援会討議資料

顔

があふれる
“まちづくり”



共働

の、
まちづくりを
目指して

まちづくりの基本や取り組む姿勢は、「共働」という言葉で表すことができます。

町民・企業・団体、そして行政が良好な関係を築きながら町の未来像を描き、その実現のために

「共に考え、共に動き、共に進めていく」

それが私の考える「共働」です。

「共働」を実現するために必要なのは、一人の強力なリーダーではありません。町が進むべき方向とその目的や目標を町民に示すと同時に、そこに向かい町民と行政が手を携えて前進しやすいよう環境を整備することが、「共働」のまちづくりで求められるリーダー像だと考えます。

町民のみなさんが
笑顔になれる
まちづくりを
実現するために!





藤木正幸がめざすのは

笑顔があふれる “まちづくり”

御船町に生まれ育ち、今も町で働く私にとって、頑張るための原動力となっているのが「人の笑顔を見たい」という想いです。それは家族であり、会社で働く社員であり、時には共にまちづくりに取り組む仲間たちです。「御船町に暮らす人々を一人でも多く笑顔にし、その笑顔の輪を大きく広げていきたい」。それが、私がまちづくりに取り組む原点です。

3 そのために… 3つの“想い(色)”で まちを元気に!

“まちづくり”を進める上で、「情熱」「環境」「経済」が大切との想いを抱いています。それを「色の三原色」になぞらえ、「情熱=赤」「環境=緑」「経済=青」で表したものが、このシンボルマークです。

三つの想い(色)は、それぞれ単独でも、より住みやすく成長を続けるためのまちづくりに必要不可欠です。しかし、異なる色を混ぜ合わせることで、思わぬ効果が生まれたり、予期せぬ成果が得られることもあります。町が持つ潜在的なヒト・モノ・自然のパワーを引き出し、もっと色彩豊かで魅力あふれる御船町に! それを実現する原動力は、町民の皆さんの想いと行動です。

めざすまちづくりは 「色の三原色」

色の三原色には赤・緑・青がありますが、私自身は常に「白」でありたいと思っています。しかし、白は「何もない、色が無い」のではなく、三原色すべてを混ぜ合わせて初めて作られる色です。三原色(情熱・環境・経済)だけでなく、町民一人一人がそれぞれに抱く三原色を組み合わせ、皆さんの想いが詰まった「白(=未来の御船町)」を創りだすまちづくりを目指します!

環境

「環境」。それは未来ある子ども達を育む場を整備し、ふるさと御船の豊かな自然を活かすことです。

- 次世代につなげる豊かな自然
- 安心、安全に暮らせるまちづくり
- 明日を輝かせる教育、福祉

情熱

「情熱」。それは御船町で暮らす人たちと、その胸にたぎる熱い想い。町民一人一人がまちづくりの“主役”です。

- 子どもたちの明るい未来
- 町民主体のまちづくり
- 地域の元気創造



経済

「経済」。それは財政が健全であり、そこで働く人たちが豊かさを実感できる“まちづくり”を進めることです。

- 財政運営の透明化
- 農業、工業、商業が潤うまちづくり
- 健やかな経済成長

